

H27. 9. 29(火) 車座集会 意見・提案内容

No	意見・提案内容
1	子供たちに囲碁を習わせよう。囲碁は自分自身で考え抜いて、自分で決断する。これが一局で何十回も繰り返される。自己決断が出来て、自立心の育成にも繋がる。また相手の立場で考えることも必要であり、囲碁が強くなることだけではなく、相手のことを考える、思いやる、という心の育成につながることも期待できる。
2	災害時の要援護者支援について、市民同士が支援し合える啓発活動の提案
3	平成6年に現在の住宅を購入（分譲住宅）路面奥までが私道となっています。住宅の入り出の路面が経年劣化で穴が大きくなり、自治会から区役所へ補修のお願いをさせていただいたが回答は私道だから出来ないとの回答。私道は複数人での分割所有となっている。個々の工事？は別として路面の補修が私道の外は区での行政ですみやかに行われるが、日常生活をする我々にとって私道も公道も区別ない。かえって私道であることでの不合理が多いことを考えていただきたい。
4	『有事における港湾の積極的有効活用について』 共産党が、船の来ない港を批判していますが、川崎市民を守るために、港をいかに活用していくべきかを議論していくべきだと考えます。神戸で大地震が発生し、自衛隊による救出を待っていた際、平和団体により、自衛隊が港に近づけませんでした。平和団体が多い川崎市でも、同じ悲惨なことにならないように、港湾の整備と法整備が急務です。
5	今年神奈川県では「手話言語条例」が制定、施行されました。ろう学校は近年人工内耳装着の子供達が増えている事は承知しています。ろう学校であっても聴覚利用重視の教育のニーズも高まっています。しかし人工内耳装着の子供達も聞こえに関しては問題をかかえています。どのような教育方針であっても聴覚障害を理解する上での基本はまず彼等の母語である手話を学習し身につける事です。ろう学校教員の手話学習の保障を希望します。
6	「公務員への手話の普及、聴覚障害者理解促進を！」私たちらう者は聞こえない、聞こえにくいため、学校、会社、病院などあらゆる場所で話が分からなくて非常に困ることがたくさんあります。情報が乏しいため、不利になるケースがたくさんあります。災害、仕事、病気など。情報がないため疎外感、孤独感を感じています。我慢しながら過ごしているろう者はたくさんいます。川崎市で手話を言語と認め、手話を普及していただければ、最初に伝えた困ったことが解消されると思います。病院、区役所で手話が使えれば、スムーズな手続きができます。そうすると我々ろう者にとって明るく過ごしやすい街になります。ぜひ聴覚障害者、手話に対しての理解についてご検討お願い致します。
7	登戸区画整理事業に関して質問

No	意見・提案内容
8	登戸地区の商店街の活性化について
9	向ヶ丘遊園跡地は生田緑地の連担する樹林地。市が借り上げて緑を保全し、公園にするなど、市民とともに活用方法を模索して欲しい。この方向は現在検討中の川崎市の緑の基本計画とも一致する。
10	多摩区には公園が少なく、広大な生田緑地には、子供向けの遊具が一つしかないため、子供に人気がありません。子育て世代にとって、子供が安心して長時間過ごせる『こども夢パーク』の様な施設はとても重要です。自然豊富な生田緑地のほんの一部を活用するだけで、夢パーク以上の子供の楽園が作れます。立地の良さを考えれば、区民だけでなく、近隣の親子の来園も期待でき、今以上に魅力的で経済効果のある公園になると考えます。
11	JR南武線の輸送力並びに運休の際の代替え交通機関に関してです
12	『川崎市にも合葬式墓地を』 少子高齢化の日本では以前から土地不足、墓不足が云われています。私もこの多摩に住んで約50年、この地で死を迎えるものと考える一人です。住まい近くの散歩コースでもある「緑ヶ丘霊園」は19万坪もあり、こと墓に不足はないと楽観視しておりましたが現実には厳しいと知りました。そんな中で3年ほど前「小平霊園合葬墓」を知り見学してまいりました。その時“故人の為に個別に墓を一つひとつ求める時代ではない”と強く感じた次第です。東京都の取組みは138万人都市川崎にも共通する課題と考えます。難しい問題はいろいろ考えられますが川崎の将来を見据え、ひとつのプランとして提案するものです。
13	『生きる街考えよう』 ①道徳について 自転車と歩行者の法的手順。6月に改正になったにも関わらず違反者が多い。明るい街作りについて報告したい。②笑顔。環境、オリンピック誘致計画。多摩川を有効利用計画。活力のある夢と希望と感動を。緑地公園の多目的計画。大企業に多摩区の環境を媒体として資金協力のある計画を検討する。
14	川崎市のより良い大気環境を目指して市民のできること